

ミニヨコ2007 運営市民58人のヒヤリング検証

「ミニヨコハマシティ～19才以下のつくるまち」の中でもっとも重要なのは、まちをつくる19才以下の市民であることは間違いない。2007年1月に運営市民募集のチラシが配られてから3月4日の最初のこどもまち会議までに、私はほとんど全員(あるものはプロジェクトリーダーのみ)に1. 直接会う、2. 電話の2つの方法でヒヤリングを行った。

今回のミニシティ形成にはこのヒヤリングが大きな意味を持ったと思う。

こどもたちの「つかみどころのないようなイメージ」、しかしこどもたちの「頭の中には完成されているイメージ」をうまく引き出し、実際のまちをつくる作業に翻訳し、現実の世界の中に落としこんでいく力が大人スタッフ側に問われたといえる。そこではうまくいったこと、うまくいかなかったことがもちろん起こった。

ヒヤリングの方法のコツについて

大切なことは、こどものいうことを否定しないこと。できそうになくても「実現するためにはなにが必要かな？」とまず一緒に考えてみる。一部分でもできそうな要素について、可能性について“こどもと一緒に”考えてみる。もしできそうになくても「今回は場所や時間、そのほかの制約があって、無理でも次回できるかもしれないね。」と次回グレードアップしてやろうね、と話す、そしてそれを忘れないようメモしておく。

失敗してもいいから挑戦してみる、という方向性でいく。はじめから形の見えること、想像できることだけではこどもにとっておもしろくない。もしできなくてもこどもは“がんばったこと”を誇りに思うはず、そのときちゃんとがんばったね、とほめてあげよう。

ヒヤリングの途中で最初のアイデアがどんどん変化していても、見守りついでいこう。そのとき、こどもの言うキーワードをどんどんメモに書き留めて置こう。もしも最後に混沌としてしまったら、戻れるところまで戻ってもう一度考えてみよう。

ヒヤリングの中で大人がサポートできることはちゃんと話そう。押し付けるのではなく、こういうことならお手伝いしようか？というアプローチでいこう。

すべては「やらなければならないこと」ではなく、「やりたいこと」なのだということ、「あそぶ」という気持ちを常に大人も忘れないでヒヤリングしよう。

No	学年・構成	当初希望	ヒヤリング	話し合い後→本番のようす
1	中学2年男子	テレビ局のレポーターになって町の中の様子をレポートし、それを編集してテレビで放送したい。そのときの取材をもとに新聞を発行したい。	「自分でビデオを持ってくる、ビデオ上で出来る範囲で編集。会場にモニターテレビをおいてそこで投影する」「パソコンができるので、写真をデジカメで撮り、文字を入力して作った新聞を無料で配布する。広告もとれたらとりたい。」	・両方はむずかしいのでは？ケーブルテレビが取材に来るので、こどもレポーターをさせてもらえないか事務局が聞いてみる→当日ケーブルのレポーターとなって街を取材し、後日ケーブルテレビで流れた。 ・新聞を作るためのパソコンは事務局で用意。カメラは自分でもってくる。印刷はリソ印刷を会場の施設に借りる。→新聞【ニュースミニヨコ】を発行した
2	小学6年女子 市長候補希望→ 副市長	こどもだけの世界、親の目を気にせず遊べる本当に自由な世界にしたい。今こどもたちの中で問題になっている「いじめ」「いじめ自殺」などをなくす作戦会議をしたい。	どのように作戦会議をしたいか？と聞くと、「まず市民にアンケート調査をする、その後市長に当選したら会議を招集したい」	・アンケートを作り、当日書いてもらう。回収ポストなどを作る。その調査を分析して掲示板に張り出す予定→アンケートは行い、アンケート用紙を直接掲示板にはっていた。アンケートを2日間で別のものにする、などの工夫もあった。アンケートの回収率が悪かった、と本人が後日反省していた。→みんなの掲示板
3 4 5	小学6年男子2人 と女子1人	友達に誘われてヒヤリングにきてみて参加することに。	リサイクルショップをする。会議でみんなの使わなくなったもの募集し、それら売る。	こども会議のときにチラシをつくって商品の提供をみんなに呼びかけていた。本番では屋外のテントに商品を並べて売っていた。完売したとのこと。交代で他の場所にあそびにいていたようだ。→リサイクルタウン
6	中学3年男子	携帯メールから送信してきた。明治大正等の時代を再現した道や施設を造ってみたい。その中で本屋等の職についてみたい。妖怪等の昔からいる不思議な存在の道や施設を造って見たい	古本屋をやる。お店の装飾を工夫したい。ミニヨコの主旨を逆にいろいろ聞かれた！	お茶を竹で作ったコップにいれて売る。竹は中学の校長先生に中学裏で竹を切ってもらい加工。会議の間に選挙管理委員会をやりたいと、投票用紙をつくったり立候補者を受付したりしていた。→古本「太陰書店」と選挙管理委員会。当日古本屋の店長として、借りてきた着物を着て、下駄を掃き、お店の準備が終わると開店と同時にほとんど選挙の仕事をしていた。

7	中学2年女子 市長立候補→広 報局長	占いのお店をやってみたい。	だれでもできるようにマニュアル化してアル バイトを雇いたい。	トランプ占いの結果をカードにかく。お店の装飾にこだわりたい。衣装もつくってみる。 →占いやさん。三角帽子にマント。いろいろ工夫してました。後日アンケートでキャン ディを用意したらもっとお客さんが来たのにな〜と書いていた。
8	小学5年男子	バスのなもの、とだけ応募用紙に書か れていた。	公園からリヤカーを借りてきて、まちの交 通機関〜バスをやりたい。まちにバス停 をつくる。広告をとり収入を得る。	→リヤカーバス。こども会議のときにすでに広告募集記事を出していた。バス停の名 前を会議の中で募集し、みな合意に基づいて名前を決めていた。準備でバス停と 運行表をつくった。当日は、正社員を途中でやとったもの、ほとんど一人でリヤカーに こどもを乗せて引き続けた。
9 10 11	小学4年男子2人 小学3年男子	銀行をやりたい1人。 友達にさそわれて応募。 なんとなく応募。	銀行はお金を自由に得られるわけでは ない、とわかったら応募用紙を書き直 し、友人を誘ってソースせんべいやをや ることに。	他にもだしがしや的なのをやりたいという女子2人とついに店を運営、大もうけして いたようす。→ソースせんべいや
12 13 14	小学2年女子2人 (プラス小学4年女 子1人)	まちをきれいにしたい、お花やさんをや りたい、という別々の応募。	まちをきれいにする＝お花を飾るがびつ たりくるのでは、と2人をつなげてみた。お 花を売るのは予算的に難しいので、横浜 市の温室からお花を借りてきて、また返 却することに。	お花(パンジーなど)をペットボトルを切ったケースにリボンなどで装飾し、公共事業と してまちの中に飾った。ところが途中で一部あげてもいい花があることで販売をしま い、公共の給料をもらいながら商売してしまうということになり、それがなぜいけない か?を説明するのに苦労した。→フラワーコーディネーター&フラワーショップ
15 16 17	小学4年女子3人 で一緒に応募	公園の遊具をつくりたい。	すべりだい、シーソー、ダンボールハウス をつくりたい。	屋外の空き地に公園スペースを作ることになった。設計図を描いて、大工さんに相 談し、プロに教えてもらいながら、一緒につくった。ダンボールハウスは風が強く2日間 もたなかった。次回も公園を充実させたいと考えているようだ。→公園プランナーとし てみんなの公園作り
18 19	小学3年と中学2 年の女子	ごみのないきれいなまちにしたい。横 浜のゴミ減量キャラのミーオくんのぬい ぐるみに入ってキャンペーン的にPRL したい。	ゴミに関するクイズをしながら、ゴミの知 識をもってもら。ゴミ分別ステーションを つくり、まちのゴミの分別を完璧にする。	事前に区役所の担当のところに子ども達が自ら何度も通い、ゴミに関するクイズの相 談にいったようだ。グッズも自分で交渉し、かなりゲットしてきた。当日はハンドマ イクを持ったひとりとミーオのぬいぐるみをきた中学生が街中をまわりPRLしていた。→ G30ゴミクイズ
20 21	小学6年女子2人 で一緒に応募	お金がなくなんでもできるまち。お菓 子。の国。時間制限のないまち。ダン スを教えてくれる人がいるまち	今回は食べ物やさんがやりたい。他にも やりたい人と調整する。	屋台街の中で話し合いそれぞれのお店の出し物を決めていた。わたあめとミルクせん べいをやることに。しかし本番わたあめの機械があまりうまくいかず、ソースせんべ いを中心に。→ソースせんべいや
22	中学1年女子	お菓子屋さんをやりたい。	いちからお菓子を作りたいようだったけれ ど、今回はホットケーキを焼き、その上 にいいッピングをすることに。	事前に本当のケーキ屋さんに修行にいった。→スイーツショップ。
23 24	小学4年女子2人	銀行をやりたい。	銀行をやりたい。お金の名前。価値。 税金的なこと、市役所的な要素、まちの しくみも考えている。	ワークの日に、お金の名前、価値、シンボルデザインなどをその場で公募。多数決に よってきばきと決めていった。お札のデザイン、通帳などもその日のうちにつくった。→ 銀行担当
25 26 27 28	小学1年から4年 までの男子4人	大人を取り締まる警察。 まちをつくる大工。	大工をやってみたいという応募がかなり 多かった。そのため大人スタッフがプロの 大工さんに声をかけ、当日サポートして もらった。	大工希望の一人が警察もやりたい、ということを他の大工希望に話し、みんなで両方 やることに。つまりまちができるまでは大工、できたら警察に変身ということになった。
29 30	小学5年女子2人	ひみつ基地作り。料理が好きなので大 人のいないところで作ってみたい。作 家になりたいので自分の書いたものを 売りたい。	いろいろなスイーツを考えて売る。手作り アクセサリを作ってきて売る。自分の書 いた漫画の作品を売る。	マシュマロサンド(マシュマロ、板チョコ、リッツ)、バナナチョコレート(生クリーム、チョコ クリーム、バナナ)、針金とマニキュアで作るアクセサリ、自分の書いた本を販売。 →スイーツと雑貨のお店

31 32	高校2年女子 中学2年女子	ハローワークをやりたい。 事務的な仕事をしてみたい。	かなり細かく仕事のしくみを考えてきた。 多くの人がスムーズに働けるようになって ね、と頼んだ。単に事務的な仕事をしたい と希望してきた中学生も手伝うことに。	ほとんど2人で他のお店の希望などを聞き、仕事の内容、時給などを調整していった。 ハローワークと銀行は密接な関係のため、ワークのときに残って調整を続けた。 当日はてきぱきとこなし、仕事探しに混乱はなかった。→ハローワーク
33 34 35	小学2年女子 (市長に立候補) 小学2年男子 小学6年男子	ニコニココンビニ。コンビニの店長になりたい。 いろんな小物、クジ、おにぎりの中身を 考えて売る。楽しくすてきなまちなしたい。 まちをお花でいっぱいしたい。にぎやかな まちなしたい。お店を増やしたい。	とてもかわいいイラスト入りのコンビニの 絵を描いてきた。住んでいるところが遠 かったので電話でヒヤリング。他の男の子 (兄弟)の友達と一緒にコンビニをやる、 ということに。	食べ物やさんは屋台街に充実しているため、 おにぎりなどの食べ物を売るのはやめた。 コンビニの商品は、オリジナル缶バッチ、 千本釣り、オリジナルシール(ベネッセか らもらったもので)、その他自分のいらな くなったものでかわいい小物を売っていた。 商品は最後値下げしたものの完売した。 →ニコニココンビニ
36 37 38	中学3年女子2人 (市長に当選) 中学2年女子1人	女の子を変身させるお店。ヘアメイク、 ネイル、顔メイク、写真撮影(記念)	化粧品については微妙な判断が必要になる ため、大人スタッフがプロのヘアメイクに 相談して、アドバイスしてもらった。事 前に研修を受け、本格的になったことが よかったようだ。	洗うと落ちるマニキュアを使う、など保護 者の感じ方への配慮も感じられた。ここ で髪を結ってもらった子がスタッフのた ころにうれしそうに駆けてきて、「こうい うのはじめて、うれしい…きれいになっ た?」と。本当にうれしそうで、いきい きとしていた。このお店は予約でいっ ぱいで大人気となった。アルバイトした い子どもも殺到していた→ミラクルヘ アネイル
39	小学4年男子	パンやさんでいろんな形のパンを作っ て売ってみたい。	ケーキ屋さんの修行の日にも来る予定 だったが、インフルエンザで欠席。ワー クも欠席してしまった。準備の日にな やんでいたが、40番と41番の男子と ともに、ポップコーンやさんをやるこ とになった。	鍋でキャラメル味と塩味のポップコーン をつくって、紙カップに入れ売った。途 中でくふうして、駅弁売りのような肩 からさげるものをダンボールで作り、 まちを売り歩いた。→ポップコーンや さん。
40	小学3年男子	消防士になって大火事を消したい。 ミニバトにのって車のレッカーをしてみ たい。 移動販売でアイスやポップコーンを売 りたい	電話でヒヤリング。消防士は都筑消防 から来てくれる隊員がミニヨコ消防署 を開いてくれることになっていたの でそこで体験できる。あとは上記の ポップコーンやさんと行くことになっ た。	上記と同じ。→ポップコーンやさん。
41	小学3年男子	ポップコーン屋さんをやりたい。カレー 味やキャラメル味のポップコーンを作 って売りたい。 テレビアニメをつくってその主人公の 声をしてみたい。旅や冒険や未来の話 のアニメ。	ポップコーンやさんをやる。アニメの 声はミニヨコ学校で見るアニメの声に 出演してもらうことに。しかし、その 録音を予定していたワークの日には 風邪で欠席。別の準備日に録音する などして対応。	準備の日には大人スタッフとカレー味、 塩味、キャラメル味の3種類のポップ コーンを試作した。上記の2人と一 緒にポップコーンを売った。アニメの 声を録音した。しかし、なんらかの 指導(声優的な)が必要だと感じた。 「やりたい」と「できる」は違う。「 やった」ではなく、「できた」と思っ て欲しい、そのためにはある程度 の指導を必要とすると感じた。→ポ ップコーンやさん また、当日までにさらにおみやげや さんと宝くじやさんを考案。色画用 紙で作ったお財布や公園で拾った桜 の枝をきったキーホルダーや、番 号を入れた宝くじを売った。
42 43 44	中学3年男子 3人	蕎麦屋をやってみたい。実際に麺を作 ることからやってみたい。3人ででき るかぎりメニューを作ってやってみ たい。	スタッフが蕎麦打ちサークル主催者に 相談したが、やはり急に蕎麦打ちは できない、修行が必要。それを電話 で伝えて、他に何にかやりたいメ ニューをもう一度考えてみて、と話 した。	ワークの日には他の人とのバランス でお腹にたまるものが欲しいと「 やきそば」「チャーハン」をやる といっていた。3人で2つのメニュー をやるのは難しいと思うので1つに しぼって、といったからチャーハン になった。当日お米をとぎ、ごはん を炊くところからはじめるチャー ハンやさんを営業。最初はあまりう まういかなかったようだが、2日 目には人気店となった。→チャー ハンやさん
45	小学3年女子	ミニヨコのキャラクターをつくって みたい。ミニヨコシティを宣伝したい。	ワークの日インフルエンザで欠席。そ の後電話のやりとりで、キャラクター をミニヨコのお札に反映させた。	当日41番男子とともにおみやげや さんを経営。くふうして売っていた。 また、イラストが得意ということで お札にも入ったキャラの案内する 当日のまちの地図を作ってもらった。

46	小学4年女子	フェイス・ペインティングをやってみたい	フェイスペインティングの組織に問合せたけれど、来てもらうということまでは叶わなかった。道具を買って自分で練習してもらうことに。	ワークの日にミラクルヘアネイル(36)のお姉さんたちと仲良くなり、一緒にネイルなども手伝うことになった。フェイス・ペインティングは準備不足になってしまった。もう少しフォローしたかったができなかった。→フェイス・ペインティング、ミラクルヘアネイル
47 48	小学4年男子2人	公園に迷路をつくる。遊び方・知らない人同士が組みになり、チャレンジ。・時間をスコアを競う。迷子になったらはしごに登ってカンニングする	迷路を作るために必要なものや迷路の設計図をイメージしてきて、とお願いした。当日設計図を書いていた。	公園作りの中に迷路をつくったけれど、自分達の意向の反映されたものではなかったらしく、当日は、台車を利用した御用聞き？なんでも運びやさんのような宅配便の経営をはじめた。お店が忙しい人にお昼ごはんを買って届けたりなどの注文を受けていた→台車の宅配便
49 50 51	小学3年男子3人	地下迷路など、迷路作り。	迷路の設計図を描くことに。	ワークの日迷路の設計図を個々永遠に書き続けて終了。当日はそのことをすっかり忘れて、バイトに精を出していた。
52 53 54	小学3年男子 小学3年女子2人	絵描きになりたい、絵を描きたいという別々に応募してきた3人。書いた絵を展示するミニヨコ博物館？ミニヨコ美術館があったらいい、という応募も。	電話でヒヤリング。絵を描く材料はこちらで用意できるので、ワークの日までにどんなことをしたいか考えてもらうことに。	別々に応募してきた3人の頭文字をとって「あはゆコミックス」というその場で絵を描く店をやることに。男の子は水色の紙に銀色のペンで植物や昆虫を書いたしおりが大ヒット。予約がでるほどだった。他の2人の絵は売れなかった。そのため他の2人は店をたたんで、バイトに出てしまった。次回は売れる絵を描く、とアンケートにあった。→あはゆコミックス
55 56	小学4年男子 小学2年男子	食べ物やさん。組み立てだりできるまち。たくさんの種目のコーナーがあるまち(たとえばフリマ、遊び場、ミニミニ映画館、絵描き場など)。友達を作る場所もいい。他にもたくさんの取り組みがしたい。	いろいろやりたいことが多いので全部はできないと思うからなにかにしぼってね、と伝えた。	ワークで市役所や銀行などの公共のチームに入りまちの仕組みを検討していた。当日は受付を中心に手伝い、落し物の連絡などをアナウンスするなど、こまめに動いていた。市長にも立候補し、残念ながら当選はしなかったが環境局長を担当することになった。
57	小学1年女子	アルバイトをしてみたい	ワークの日はこれなかったが、アルバイトをしてみたいということなのでいろんな職業を選べるよと伝えた。	当日、おみやげやさん(41)を手伝っていたり、大人の悩み相談室の相談員をした。大人の悩み相談室では非常にユニークで明快な答えを出し、大人に絶賛されていた。
58	小学1年男子	ゲームやさん	大学生(19才)と一緒にお店の準備をすることになった。	検討の結果、輪投げ屋さんをすることに。輪投げはスポーツセンターから借りる。商品は大学生がもうつかわなくなったポケモンカードを提供。大学生と小学1年が一緒に店を運営した。あとで判明したが、まだあまりお金の計算ができないため、小さい子同士であふれたお店では、計算間違いが多かったようす。この店はちいさな男の子たちでいつもいっぱいだった。